

毎日経済

[単独]シン・ドンビンあごまで締め付ける捜査

記事入力 2016.08.17 午後 17:35 最終修正 2016.08.18 午前 12:01

「ロッテ道3人」のソジンセ社長最初召喚

ソジンセロッテグループ政策本部対外協力団長（66・社長）が光復節連休に検察召還調査を受けたことが17日、確認された。小社長はイインウォンロッテグループポリシー本部長（68・副会長）、ファンガクギョロッテグループ政策本部運営室長（61・社長）と一緒にシン・ドンビンロッテグループ会長（61）の「道のグループ3人」の一人である。ソウル中央地検特捜4部（部長検事ジョジェビン）は、過去連休期間牛社長を呼んでコリアセブン代表を務めてた当時ロッテピエスネットを不当サポートに至った経緯などについて調査したこの日明らかにした。辛会長がこれを指示してたのかなど、グループレベルの意思決定プロセスにも調査したことが分かった。

資金難に苦しんでいたロッテピエスネットは、2010年から昨年まで、すべて4回にわたって360億ウォン台有償増資を実施した。コリアセブンとロッテ情報通信、ロッテドットコムロッテ系列会社がここに参加しながら背任疑惑が提起された状態だ。小社長は、2010年2月から2014年8月までにコリアセブン代表として不良系列会社をサポートするかどうかを最終的に決定することができる位置にいた。

検察は小社長を相手にロッテグループの大株主一家の秘密資金造成疑惑についても確認したと伝えられた。ロッテグループ政策本部は、大株主一家の資産管理はもちろん、系列会社の海外買収・合併（M&A）、不動産取引などのグループの重要な意思決定を企画して指揮・実行したところである。辛会長の「頭脳」と見ることができる組織には、グループポリシー本部の社長級核心幹部である小社長が召喚されたということは、検察の捜査が辛会長あごまで進行されたということの意味する。小社長は1977年、ロッテショッピングに入社し、ロッテスーパーとコリアセブンなどの社長をやって2014年8月から、グループポリシー本部に身を置いている。彼はロッテグループの不正疑惑に対する検察の捜査が本格化する前に、辛会長を遂行し、米国出張に上がるほど、辛会長の最側近に分類される。

【ソニイルソン記者/ギムセウン記者】

【©毎日経済&mk. co. kr、無断転載および再配布禁止】